

令和4年度 公共政策学部 学校推薦型選抜
公共政策学科／福祉社会学科 小論文 出題意図

●大問1

【出題意図】

問一は、企業がSDGsへの取り組みを強化している理由について、受験生が問題文を的確に理解した上で、論理的に述べられているか、基礎的な読解力、論述力を問うものである。

問二は、「四方よし」という考え方について、受験生が問題文を的確に理解した上で、自らの問題意識に沿って具体的な例をあげ、論理的に自らの意見を展開させることができるかどうかを評価した。

●大問2

【出題意図】

公共政策学科・福祉社会学科のそれぞれのアドミッション・ポリシーに示されている「実証研究に必要なデータ分析能力」と「福祉社会の実現に関する諸問題を扱った文章や数量データを読み解くための力量を備えているかを問う出題である。

問1では、要因(変数)の関係(正比例(正の相関)／反比例(負の相関))を読み取り、それを論述できるかを確認した。表1からデータ可視化の技法を用いることができると論述の参考になると推測できる。

問2は、合計特殊出生率に相関／影響のある要因(変数)を日常的な学習から提示できる能力を確認する意図で出題した。解答者が提示した要因(変数)が合計特殊出生率にどのように相関／影響があるかを説得的に提示できるかを問うた。

●大問3

【出題意図】

筆者は、広義の民衆文化と民俗文化の関係、民俗文化と相対する上流文化の関係を説明するとともに、特に近代以降の民衆文化と大衆文化の関係を整理し、民衆文化の本質と機能について論じている。

問一では、それらの関係を本文に即して歴史の時間軸も含めて読み取る力と、まとめる表現力を問うた。特に、文章後半で指摘している今日の民衆文化と大衆文化の対立・相克関係についての読解力と説明する記述力の有無が評価のポイントとなる。

問二では、民衆文化の機能の一つである「相互連帯」についての読解力を問うと同時に、具体例を挙げつつ説明できているかを問うた。